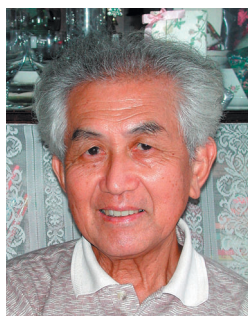


いきいき 人生

い お ざ わ と も や
五百沢智也氏
●インタビュー



測量協会関東支部の西村隆二さんは、私が地理調査所にいた頃の直接の上司でした。

金窪敏知さんや、大竹一彦さんは机を並べた同僚でした。皆さん院長になれましたが、私は途中でポシャって、いままでずっと浪人というわけです。

地理調査所には1957年、中野尊正さんに口を利いてもらって、アルバイトとして働くことになりました。周りの経験豊かな上司、先輩方のもとで、空中写真の図化作業、清描作業をやることになりました。しばらくして、地理課でやった地形調査のときの水準測量の結果と合致するように、その地域の等高線を写真測量で補正してくれといわれてドギマギした思い出があります。夏になって立山の五万分の1地形図を作るということになって測手登録して測手として参加しました(アルバイトでは行けないので)。空中写真測量による全面改測のための現地調査作業でした。私は、立山、剣、黒部谷の三図葉を股にかけて、藪こぎ、水汲み、飯炊き、旗立て、写真画像分類調査に励んだ思い出があります。

その秋に国家公務員の地理職に合格しました。大竹さんと同期です。1958年の夏には5万分1地形図「藤原」の修正版を一人で担当することになったのです。図は奥利根の大部分と尾瀬ヶ原の西側7割くらいを含む範囲でした。奥利根のけわしい沢登りをこなして、平ヶ岳、刃物ヶ崎山、下津川山などの三角点の位置を刺針で空中写真上に記録し、現地の植生、岩場、道路、施設、集落を地図化できるように調査しました。この仕事で地形図作成の全工程を体験でき、その後わたしの進む道の第一歩、最初の成果だったと思います。

私は国土地理院を1970年に辞めました。ひとは「あいつはヒマラヤに行くために辞めたんだ」といいますが、その通りです。ヒマラヤの魅力にとりつかれてし



槍・穂高連峰 画 五百沢智也

まったのです。

その年9月～11月に第1回のヒマラヤ行を実現し、その後1983年まで13回を数えました。向こうでの調査をまとめて1976年『ヒマラヤ・トレッキング』というガイドブック兼ヒマラヤ解説書をまとめました。これは鳥瞰図・写真・スケッチ・あらたに作成された地図などを盛り込み、美しいヒマラヤの本に仕上がりました。この本は英語とフランス語に翻訳されて出版されています。

今年3月から千葉県立中央博物館で「山の科学画」展を開きます。いま取り組んでいる地貌図を展示します。いまどきこんなのを描いても版下代くらいにしかありません。何か月もかかって5万円とか10万円とか。時間割りにしたらペイしない仕事です。

地理院の陰影図70万分の1をもらって、その上にオーバーレイをあてて、海岸線をまず描く。20万や細かいところは5万を見て。現在の海岸線なので、(古い20万では分からないところは)新しい空中写真を見て、埋め立てとか造成とかを確認します。そして今度は川を描いていきますが稜線がなかなか分からない。水系から入って、稜線を地図と空中写真できめて、それを主稜線から入れていく。線の太さ細さで加減して立体的に描く。斜面の傾斜や向きに応じて暗影側と光輝側の判断をします。この全部フリーハンドで3年かかったペン画の地貌図7枚なども展示してあります。数年前心臓の手術をして、山行とまではいきませんが、こうしてペンを持ち想いを馳せています。ぜひご来館下さい。🖋️ (聞き手 浦郷武夫)

五百沢智也氏 略歴

- 1933年 山形県山形市に生まれる。山形東高卒。
- 1957年 東京教育大学理学部地学科地理学専攻卒業。建設省地理調査所に勤務。
- 1970年 国土地理院退職、以後フリーとなり、調査・執筆活動を行う。
- 1983年 「日本アルプスおよびヒマラヤ山脈における氷河地形および地誌の研究」により、第19回秩父宮記念学術賞を受賞
- 現在 千葉県一宮町在住

主な著書に『鳥瞰図譜＝日本アルプス』(講談社)、『登山者のための地形図読本』『山の観察と記録手帳』『岩波ジュニア新書 新・歩いて見よう東京』などがある。

春の展示 山の科学画 展

会期：平成19年3月3日(土)
～5月27日(日)

休館日：毎週月曜、ただし4月30日(月祝)は開館

会場：千葉県立中央博物館
主催：千葉県立中央博物館
後援：国土地理院、(財)日本地図センター、日本国際地図学会、(社)日本地図調製業協会
協力：寒冷地形談話会